

\*プロジェクト

## 6 地域リハビリテーションシステムの構築

### ● 基本方針 ●

地域リハビリテーションがめざすのは、加齢にともなう心身機能低下の予防、傷病発症後の早期の在宅復帰と自立した生活のできる限りの継続である。

このような地域リハビリテーションシステムの構築には、保健、医療、福祉が連携し、地域におけるリハビリサービスの体系化（役割の明確化）を図ることが不可欠である。

このため、区全体のリハビリテーション中核施設である老人保健施設「ケアセンター南大井」の機能を充実させるとともに、各地区におけるさまざまなリハビリサービスを整備・拡充し、中核施設との連携を強化する。

### ● 具体的方策 ●

#### 1．老人保健施設「ケアセンター南大井」の充実

##### (1) 入所によるリハビリ

病院からの在宅復帰、在宅継続を主眼とするリハビリサービスを充実する。

##### (2) 通所によるリハビリ

デイケアセンターにおいて、リハビリサービスを効果的に提供するとともに、リハビリに関する相談、情報提供活動を充実する。

#### 2．身近な地域でのリハビリサービス拠点の整備

##### (1) 市町村特別給付によるリハビリサービスを新設する。( 105 ページ参照)

##### (2) 地区の在宅サービスセンター等においてリハビリサービスを強化する。

#### 3．多様なリハビリサービスの提供

在宅サービスセンター等において園芸療法や音楽療法など広範・多様なリハビリメニューの展開を促進する。

#### 4. 「ふれあい健康塾」等との連携による介護予防の充実

介護予防の観点から、高齢者が身近な地域で早期に「ふれあい健康塾」等のサービスを利用できるよう、健康づくり事業と連携してサービスを提供する。

#### 5. 住宅改修や福祉用具との連携の強化

住宅モデルルーム機能等を活用し、ケアマネジャーへの研修やアドバイスを行うなど、効果的な住宅改修・福祉用具利用と連携する。

#### 6. ケアマネジメントの強化

- (1) 専門医、理学療法士、作業療法士等によるリハビリ専門チームを編成し、現場スタッフへの支援活動の充実を図る。
- (2) 福祉カレッジ等を活用した研修機会を拡充し、介護スタッフ、ケアマネジャーの資質向上を図る。

リハビリテーションの種類と目的

種 類	目 的	対応するサービス
急性期 リハビリテーション	傷病発症直後に疾患の治療に重点を置きながら心身機能の維持を図る。	一般病院への入院
回復期 リハビリテーション	在宅復帰が困難な状況のもとで、傷病の治療とリスク管理に留意しながら心身機能の回復を図る。	回復期リハビリテーション病棟、介護療養型医療施設、リハビリテーション病院への入院
維持期 リハビリテーション	在宅復帰後、心身機能の維持と日常生活能力の回復を図る。	入所・通所リハビリテーション（老人保健施設、デイサービス、診療所） 訪問リハビリテーション
健康づくり 介護予防	加齢にともなう緩やかな心身機能の低下を予防。要支援・要介護高齢者の重度化予防。	ミニデイサービス、出会いの湯・連れそって銭湯、健康塾・ふれあい健康塾など